

# 辻 彩奈さん(ヴァイオリン)

## 響きの森 クラシック・シリーズ Vol.64

2018年5月26日(土) 15:00

文京シビックホール 大ホール

辻さんの演奏にはスケールの大きさを感じた。この日は2階席だったが、ヴァイオリンの音色がまるですぐそこで弾いているかのように響いてきた。湧き出るようなフレッシュなエネルギーが感じられる。

ところが実際にお会いすると思いのほか華奢だ。大ホールの隅々まで響かせるあのパワーはどこから来るのだろうか。辻さんの堂々としたスケールの大きな演奏と、小柄ではにかんだ笑顔。そのコントラストに不思議な魅力を感じた演奏会だった。

### ◆プログラム

チャイコフスキー

弦楽四重奏曲第1番より

「アンダンテ・カンタービレ」(弦楽合奏版)

ヴァイオリン協奏曲

交響曲第6番「悲愴」

辻 彩奈さん(ヴァイオリン)

東京フィルハーモニー交響楽団

指揮: アンドレア・バッティストーニ



© K.Miura (写真提供: 文京シビックホール)

Q&A

いつも明るく元気。目標をしっかりと定め、前しか見ない。とても堂々と演奏するが、直前は緊張を抑えるためか屈伸運動をする。自分の気持ちを素直に表し、個性的に見える。そんな辻さんはまだ20才。辻さんの素顔を知りたいと思い、質問を投げかけてみました。

Q1. 辻さんがヴァイオリンを弾きたいと思ったのはいつ頃ですか。何がきっかけでしたか。これまで続けて来られて、結果を残せたのは何が理由だったと思いますか。

A1. 私は3歳からヴァイオリンを始めました。父が今もヴァイオリンを弾いていて3歳から始めていたので、父が小さい頃使っていた楽器が家にあっただけ始めました。始めた頃のことは全く覚えていませんが、年に1回ある教室の発表会で人前で弾けるのがとても嬉しかった記憶があります。

**Q2. 数ある楽器の中で、ヴァイオリンを弾きたいと思ったのは何故でしょうか。ヴァイオリンの魅力はどこにありますか。**

A2. ヴァイオリンは、甘い音色や力強い音色など様々な音色が奏でられる楽器だと思います。私はその中でも、一筋の光が差してくるような、繊細な音色が一番好きです。

また、自分の身体と密着しているのので、自分の身体の一部のようにして、感情を表現できると思います。



© K.Miura (写真提供: 文京シビックホール)



© K.Miura (写真提供: 文京シビックホール)

**Q3. 今日演奏されたチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は誰もが聴いたことのある有名な協奏曲ですが、辻さんはどんな曲にしたいと思って臨まれましたか。聴き手に何を伝えたいと思って演奏されましたか。**

A3. チャイコフスキーの協奏曲は、本当に有名ですし綺麗な旋律の曲なので、曲の素晴らしさを伝えられるように演奏しました。雄大で大きな演奏にするために、マエストロのアンドレア・バッティストーニ氏や東京フィルの皆様がたくさん助けていただきました。

私はオーケストラとコンチェルトを演奏するのが大好きです。それは、オーケストラのいろいろな楽器の方とアンサンブルができ、舞台にいる何十人の皆さんで音楽を作っていると感じられるからです。

**Q4. 辻さんが特に好きな作曲家は誰ですか。その理由は何でしょうか。**

A4. モーツァルトです。  
モーツァルトの楽曲は明るくて、キラキラしているものが多いと思います。モーツァルトの曲を聴くのも演奏するのも大好きで、聴いても弾いても幸せな気持ちになります。



© K.Miura (写真提供: 文京シビックホール)

**Q5. 留学したいとお考えとのことですが、留学希望先としてヨーロッパを選ばれたのは何故ですか。**

A5. たくさんの作曲家が曲を作ったヨーロッパで、その空気や環境に触れながら音楽を学びたいと思ったからです。

また、もう一度古典をしっかり勉強したいと思っています。留学先でできた仲間と、室内楽も積極的に勉強していきたいです！

**Q6. 辻さんはどんなヴァイオリニストを目指していますか？他のヴァイオリニストと差別化するとするとどんなヴァイオリニストになりたいですか。そのために、今後何をすべきだと思っていますか。**

A6. 「自分の音」を持っているヴァイオリニストになりたいと思います。

これからも自分自身と向き合って、自分の音や表現を見つけていきたいです。



**Q7. まだ20歳の辻さんですが、一番幸せだなあと思う時はどんな時ですか。自分を一番元気づけてくれるモノ(人、食べ物等)は何ですか。**

A7. 一番幸せな瞬間は、舞台上でヴァイオリンを弾いている瞬間です。先ほども書きましたが、昔から人前で弾くことが大好きで、今も緊張はしますが舞台上で演奏することがいちばんの幸せです。

たくさんのお客様にお越しいただき拍手を頂いたときや、私の演奏を涙を流して聴いてくださる方がいらっしやったとき、本当に嬉しくて、演奏家でよかったなと思います。



辻さんの回答を読んで、純粋な情熱を素直に表現している感じがした。ヴァイオリンのまっすぐな音色が好き。オーケストラと様々なアンサンブルができるコンチェルトが大好き。明るくてキラキラしているモーツァルトが好き。そして舞台上でヴァイオリンを弾いている瞬間に一番の幸せを感じる。

この回答を読みながら、辻さん自身がまっすぐなキラキラした一筋の光のように見えてきた。後ろは振り向かずまっすぐ前しか見ない。可能性の塊のような辻さん。その光の先にはどんな辻さんがいるのだろう。5年、10年、30年後の辻さんを見てみたい。

